

# 紀 要

第 22 号

2009.3

財団法人 滋賀県文化財保護協会

## 〔小特集〕近江の横穴式石室実測調査報告

辻川 哲朗・重田 勉・堀 真人

近年、横穴式石室の研究と資料整備が進んでいる。2007年には横穴式石室研究会が「近畿の横穴式石室」と題した研究集会を開催し、その資料集として『近畿の横穴式石室』<sup>(1)</sup>が刊行された。同書には近畿二府四県の横穴式石室のなかから実測図の提示されている事例が集成され、一覧表とともに画像データを掲載したCD-ROMが添付されている。また、県内においても甲賀市史編纂事業に伴って地域の横穴式石室の実測調査が実施され、これまで様相が判然としなかった甲賀郡内の資料が明らかとなった<sup>(2)</sup>。

このような実測調査による資料化とその集成・公表は埋蔵文化財保護行政上における基礎資料の整備という点で必要である。それに加えて、研究資料の整備という点で不可欠であることはあらためていうまでもないことであろう。

とくに、開口した横穴式石室の場合、発掘調査を経なくても実査によってある程度の様相を把握できるし、実測によって資料化し、公開することでデータの共有が可能になる。

加えて、指摘しておきたいのは石室の経年変化の問題である。現在開口している石室のなかには半壊状態にある事例が少なくなく、自然的要因によって今後破損が進む可能

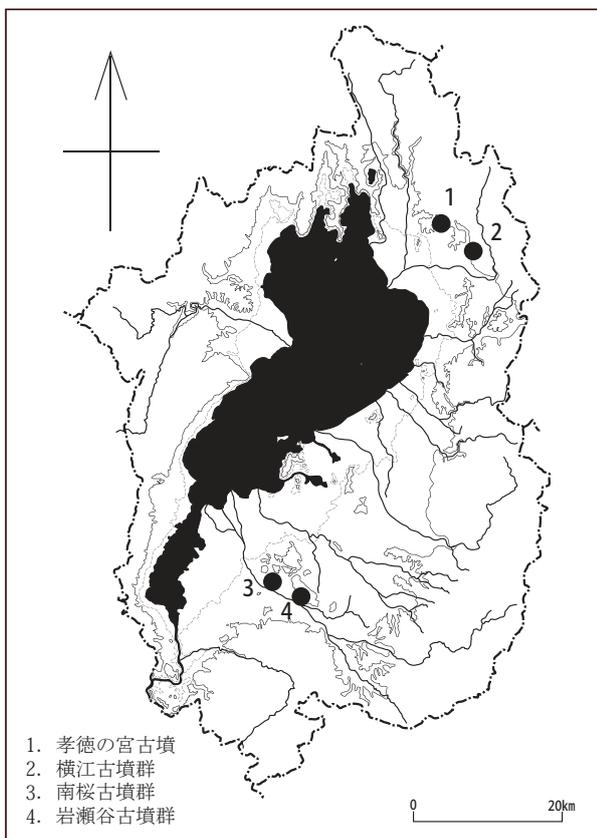
性も否定できない。また、現在開口している石室も土砂の流入により近い将来には入口が埋没してしまう可能性もあろう。そのようなことから、できるだけ早い段階で記録化を図っておくことが望ましいのである。

以上のような考えに立ち、今回は県内において開口する横穴式石室墳のなかから資料化されていない事例を対象として実施した石室実測調査の結果を報告する。

その対象は湖南市1古墳群2基・野洲市1古墳群2基・長浜市2古墳群2基の合計6基の古墳である(図)。対象市町が広範にわたるのは、試掘・発掘調査を担当するなかで、現場周辺の踏査によって見出した事例を対象として休日等に実測作業を行ったことによる。本来ならば、フィールドを設定し、その地域内で悉皆的な分布調査と実測調査を実施すべきことは十分承知している。しかし、先述した重要性を鑑み、できるところから手をつけておくことも大切であると考え、あえてここに報告させていただいた次第である。どうかご了承いただきたい。

今後も、このような基礎調査報告を継続し、機会をみて報告していきたいと考えている。

(つじかわ てつろう・しげた つとむ・ほり まさと)



今回報告する古墳・古墳群

## 註

- (1) 横穴式石室研究会編『近畿の横穴式石室』横穴式石室研究会、2007年
- (2) 細川修平・林修平『甲賀の横穴式石室』(甲賀市史編纂叢書第4集)甲賀市教育委員会、2008年

#### 編集後記

今回の紀要は、出土資料の紹介をはじめ、遺跡および遺構の新たな評価や再検討など多彩な内容となっています。これらには、近江の独自性が垣間見えるとともに、幅広い交流の歴史が反映されているようです。

本書が文化財の保護のため、広く活用されることを心より願っています。

(編集担当)

平成21年(2009年)3月

### 紀 要 第22号

編集・発行 財団法人滋賀県文化財保護協会  
大津市瀬田南大萱町1732-2  
Tel.077-548-9780(代)  
<http://www.shiga-bunkazai.jp/>  
E-mail: [mail@shiga-bunkazai.jp](mailto:mail@shiga-bunkazai.jp)

印刷・製本 (株)同朋舎